

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

部局名 行動システム専攻 心理学コース（修士・博士後期）

1. 新ディプロマ・ポリシー

<p>教育の目的</p>	<p>人間環境学府行動システム専攻心理学コースでは、人間の行動と心のメカニズムを深く探究・解明し得る人材を育成するための教育と研究指導を行う。そのために、心理学で伝統的に行われてきた感覚・知覚、認知、教授・学習、発達、人格、社会行動、集団行動、組織行動、文化、心理測定・研究法といった領域はもとより、感性情報処理や比較認知科学といった新規学際領域をも視野に入れた多様な研究・教育プログラムを提供する。</p> <p>修士課程では、学士レベルの学習や学問的経験を土台に、(1)心理学の基礎科学・応用科学としての両側面に関する幅広い知識、(2)専攻する専門分野に関する高度な知識と特殊スキル、(3)確かな研究技法および創造的な研究能力、発想力、(4)成果を研究者コミュニティおよび社会に発信し建設的な議論を展開する能力を育成する。</p> <p>博士後期課程では、学士・修士レベルの学習や学問的経験を土台に、(1)心理学の基礎科学・応用科学としての両側面に関する、専門家としての深さと幅広さをもった知識と見識、(2)専攻する専門分野をリードしうる高度な知識と特殊スキル、(3)確かな研究技法および創造的な研究能力、発想力、(4)成果を国内外の研究者コミュニティおよび社会に発信し建設的な議論を展開する能力を育てる。</p> <p>これらの目的を達成し、所定の修了要件を満たしたものに対して、履修した科目および研究テーマに応じて、修士（人間環境学）または修士（心理学）、博士（人間環境学）、博士（心理学）の学位を授与する。</p>
<p>参照基準</p>	<p>1) 日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 心理学分野」（2014）</p> <p>2) Quality Assurance Agency for Higher Education, ” Subject Benchmark Statement: Psychology” (2016)</p>
<p>学修目標</p>	<p>修士課程</p> <p>A. （主体性・協働）</p> <ul style="list-style-type: none"> • A-1. （主体的な学び）深い専門的知識と豊かな教養を背景として自ら問題を見出し、創造的・批判的思考を用いて、積極的に研究活動を推進できる。 • A-2. （協働）豊かなコミュニケーション能力をもとに多様な知の交流を行い、専門領域の異なる他者と協働しながら問題解決にあたることができる。

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<p>B. (知識・理解)</p> <ul style="list-style-type: none">心理学と関連諸領域の背景理論に関する専門的知識を有する。 <p>C. (技能)</p> <ul style="list-style-type: none">C-1. (適用・分析) 人間行動や社会の様態を抽出できる情報収集能力とデータ分析の専門的スキルを有する。C-2. (評価・創造) オリジナルな発想力と既存の知識や理論に安住しない批判的思考力を有する。 <p>D. (実践)</p> <ul style="list-style-type: none">人間や社会の問題と個々の研究領域を接続できる視野と他分野との連携能力を有する。 <p>博士後期課程</p> <p>A. (主体性・協働)</p> <ul style="list-style-type: none">A-1. (主体的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養を背景として自ら問題を見出し、創造的・批判的思考を用いて、積極的かつ計画的に研究活動を推進できる。A-2. (協働) 豊かな言語能力とコミュニケーション能力をもとに多様な知の交流を行い、専門領域の異なる他者と協働しながら問題解決にあたることができる。 <p>B. (知識・理解)</p> <ul style="list-style-type: none">心理学と関連諸領域の背景理論に関する高度な専門的知識と体系的な理解を有する。 <p>C. (技能)</p> <ul style="list-style-type: none">C-1. (適用・分析) 人間行動や社会の複雑な様態を系統的に抽出できる高い情報収集能力と、緻密なデータ分析が可能な専門的スキルを有する。C-2. (評価・創造) 深い洞察に基づくオリジナルな発想力と、既存の知識や理論に安住せず論理的に判断・評価できる批判的思考力を有する。 <p>D. (実践)</p> <ul style="list-style-type: none">人間や社会の問題と個々の研究領域を接続できる広い視野、理論的素養、共同研究の遂行能力を有する。
--	--

2. 新カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する。

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

【コースワーク】

修士課程

修士課程では、人間環境学府共通の「特別研究」を必修科目とする。加えて、「人間行動学特講」、「人間行動学特論」、「心理学研究法特講」、「心理学研究法特論」、「心理データ解析学」をコース指定科目として履修することにより、心理学の基礎知識と研究スキルを包括的に学習する。また選択科目では、心理学コース及び健康・スポーツ科学コースの教員が専門分野ごとに開講する授業科目や、専攻を跨いだ学際的な授業科目を通して、専門性を高めると共に学際性の基礎を養う。

博士後期課程

博士後期課程では、主指導教員による「博士論文指導演習」を必修科目とし、研究者や高度専門職業人として自立するための実践的な学習を行う。また専門分野ごとに開講される授業科目や分野横断的な授業科目を選択科目として履修することにより、専門的・学際的な研究能力を培う。

【研究指導体制】

修士課程

各課程において複数指導教員体制が取られており、学生は自分の所属する専攻から主指導教員1名、所属する専攻または他専攻から副指導教員1名を選定する。主指導教員は研究指導及び論文作成指導を行い、副指導教員は主指導教員を補佐する形で研究及び論文作成の支援を行う。

博士後期課程

各課程において複数指導教員体制が取られており、学生は自分の所属する専攻から主指導教員1名、所属する専攻または他専攻から副指導教員2名を選定する。主指導教員は研究指導及び論文作成指導を行い、副指導教員は主指導教員を補佐する形で研究及び論文作成の支援を行う。

【学位論文審査体制】

修士課程

修士論文については、人間環境学府の学位論文評価基準として設けられた6つの評価項目（1. 研究と論文執筆の主体性、2. 研究の学術的・社会的貢献度、3. 研究の位置づけの明確さ、4. 研究方法の適切さ、5. 論理性、6. 研究倫理への配慮）を基に、主指導教員及び副指導教員が総合的に評価し、その評価を基に得点と合否を決定する。

博士後期課程

博士論文については、人間環境学府の学位論文評価基準として設けられた6つの評

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

価項目（1. 研究と論文執筆の主体性、2. 研究の学術的・社会的貢献度、3. 研究の位置づけの明確さ、4. 研究方法の適切さ、5. 論理性、6. 研究倫理への配慮）に基づき、論文調査会において3人以上の論文調査委員が総合的に評価し、論文公聴会での意見の聴取と、論文審査会での最終試験の結果の審議を経て、可否を決定する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

本コースにおける学修目標の達成度は、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかをコース担当教員によって構成される検討会議において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

各課程における学位取得を促進するため、以下のプログラムに基づき学生の学修目標の達成度を評価する。

修士課程

1年次の後期と、2年次の前期に修士論文中間発表会を行い、研究の進捗状況の確認と指導を行う。

博士後期課程

1年次に「研究計画書」と「レビュー論文概要」を提出し、博士論文で取り扱う問題の整理と研究の位置づけに関して指導教員による確認と指導を行う。2年次には「レビュー論文」を提出し、博士学位論文提出資格の審査を行う。

3. 新アドミッション・ポリシー

求める学生像	<p>修士課程</p> <p>主に人間の精神的活動などの人間行動を研究対象とし、心理学や関連分野で培われたアプローチを通じて人間行動の仕組みを解明し、国内外の研究者と協働しながらグローバルに活躍する研究者や高度専門職業人を目指す学生を求めている。</p> <p>博士後期課程</p> <p>上記の事柄に加えて、専門分野における高度な知識と技能を持ち、自ら進んで研究を推進し、研究成果を国内外に発信する能力・資質を有する学生を求めている。</p>
--------	--

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<p>学部教育との接続</p> <p>学部教育において心理学を専攻する学生が獲得すべき基本的な素養を持ち、上記の資質・能力を有する学生を積極的に受け入れる。</p>
入学者選抜方法との関係	<p>修士課程</p> <p>心理学の基礎知識と研究法に関する筆記試験、英語の外部試験に加え、研究計画または卒業論文に基づいて行う口述試験も重視する。入学後どのような研究を志願者が行うのかについての発表を求め、その後の質疑応答によって、志願者の能力と適性を判断する。</p> <p>博士後期課程</p> <p>英語の外部試験に加え、修士論文及び研究計画に基づいて行う口述試験と研究業績も重視する。入学後どのような研究を志願者が行うのかについての発表を求め、その後の質疑応答によって、志願者の能力と適性を判断する。</p>